

教育保育目標: 『心もからだも健康な子ども』

- 意欲をもって行動する子ども ●豊かな感性をもった子ども ●友達と仲良く遊ぶ子ども ●丈夫で元気な子ども ●気持ちや考えを伝える子ども

新しい年を迎えましたが、祝う言葉を控えなければならないような大きな災害に見舞われました。1月5日にあった余震では、子どもたちはすぐに保育者のそばに寄り、体を小さくして身の安全を確保していました。

こそとれる行動です。大きな災害がないように願うばかりですが、いざという時には子どもの安全を最大限守れるように努めてまいります。

今年も様々な園の活動にご理解とご協力をよろしくお願い致します。



予報通り暖冬のようなようです。1月上旬ですがバギーに乗ってお日さまをあびながら気持ちよいお散歩ができました。

センス・オブ・ワンダー!!自然を感じる力を養う 一晴れた日の子どもの姿から

幼児教育番組や書物を見ると時々、『センス・オブ・ワンダー』という言葉にであいます。自然科学者でもあるレイチェル・カーソンの言葉で「自然に触れ、深く感動するセンス(力、感性)」と訳されています。

人はたくさんの感性を身につけて大人になっていきます。特に感性は子どもの頃に磨かれると言います。

園の子どもたちはまさに今たくさんの経験を積み重ね、ものの見方や考え方の基盤となる感性を身につけようとしているのです。

レイチェル・カーソンは「美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものに触れた時の感激、思いや、憐れみ、賛嘆や愛情などの様々な感情がひとたび覚まされると、次はその対象となるものについて、もっとよく知りたいと思うようになります。」

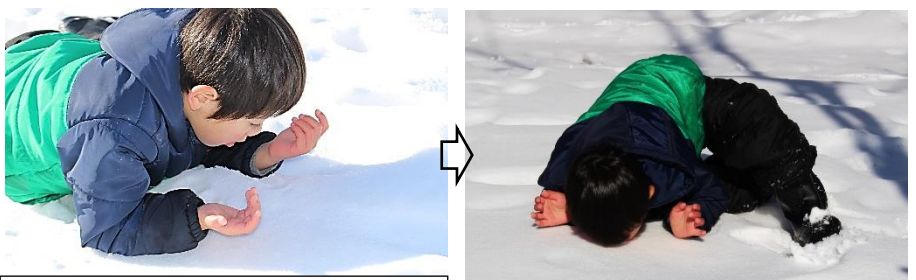
そのようにして見つけ出した知識はしっかりと身に付きます。」と説いています。

子どもたちには、今だからこそ身につけられる『センス・オブ・ワンダー』を大切に育てたいものです。

子どもが何かをじっと見入ったり没頭している時には、大人は不要な声かけをしないで子どもの世界を見守っている方がよさそうです。



裏庭で足跡発見!何の動物??? 動物を想像しながら跡を追跡すると「あれー、きえちゃってる!どうして?…」見えていたものが見えなくなる不思議。大人になってしまうとたないような疑問をもち、知りたくなるのが子どもです。



↑ もう手が冷たいのでしょう。でもまだ腹ばいになってジーツと雪面を見つめ続けています…。

↑ そのうち、雪にしっかり顔を付けまるで雪と対話でも始めたかのようでした。



降ったばかりの雪の上でお日向になって!お日さまの気持ちよい光を浴びながら気持ちよさそうですが、きっとそれだけではないものを感じているのでしょうか?

子どもには大人が感じ取れないもの、忘れてしまった世界が見えるのかも知れませんね…。

2の予定

- 1日(木) 卒園児記念写真(5歳児)
- 2日(金) 節分豆まき
- 3日(土) 希望保育
- 8日(木) 完全給食
- 9日(金) えいごであそぼう
- 10日(土) 希望保育
- 11日(日) 建国記念の日
- 12日(月) 振替休日
- 13日(火)~16日(金) 個別懇談会(2~5歳児)
- 16日(金) えいごであそぼう 年中児子育て相談会

- 17日(土) 希望保育
- 19日(月) 食育の日
- 22日(木) 避難訓練 園だより配付 布団・靴持ち帰り
- 23日(金) 天皇誕生日
- 24日(土) 希望保育
- 29日(木) 各種たより配付

※ 毎週木曜日にことばの相談会があります

お知らせとお願い

【コロナとインフルエンザの同時流行防止に注意】
昨年末インフルエンザの流行が園でも見られました。現在は落ち着いていますが、一時終息したかに見られたコロナの感染が子どもや職員間で最近増加しています。園内感染拡大防止にご協力をお願いします。

- インフルエンザの際は発症した日の翌日から5日間が経過し、なおかつ解熱した後3日経過してから登園可
- コロナの際は発症した日の翌日から5日間が経過し、なおかつ症状が軽快した後24時間程度経過してから登園可
- インフルエンザ、コロナとも同居家族が感染した場合は、園児の登園を控えていただくこと拡大防止につながります。

『赤い羽根共同募金を届けてきました』

12月28日、ご協力をいただいた募金を、きりん1組の子どもたちが、町の募金委員会に届けてきました。募金総額は11,668円でした。沢山のご協力を頂きました。会長さんからは募金がどのように使われるかや福祉活動(募金)に関わるとても良いお話を聞かせていただきました。大勢の子どもたちにも伝えたいお話でした。これからも募金をはじめ、福祉活動をする機会があると思います。お話を紹介させていただきます。

福祉活動とはみんなが幸せになれるようにすることです。皆さんが集めてくれた募金も誰かの幸せになります。これからも困っている人を助けてあげてください。皆さんがお友達同士仲良く元気いっぱいいてくれるのも誰かを幸せにします。たくさんの温かい心を本当にありがとうございました。



子どもたちが絵や折り紙で飾った募金箱が、ぎっしり入っています。

【節分の行事「豆まき」をします】

2月2日、園では一足先に豆まきを行います。コロナ感染の予防から豆まきの様子も少しずつ変わってきています。今年も各学年で話し合い、趣向を凝らした楽しい行事になることでしょう。誤嚥(ごえん)の危険がある豆は使わずに行います。学年・クラスの便りやドキュメンテーションをご覧ください。

ほいくの窓

※このコーナーは特別支援教育部が担当しています

集団遊びの大切さと個(その子自身)の思いの大切さ ~4歳児のルールがある遊びをする姿から~

3.4.5歳児になると、保育者から離れ、友達との関わりが多くなっていきます。体や心の発達からおおよそ4歳児の後半になると、少し大きな集団でルールのある遊びをするようになってきます。勝ち負けの意識が強まると共に、「1番、2番」といった順位数も理解できるようになるので、1番にこだわる姿も出てきます。

ぱんだ組では、椅子取りゲームを行うと、勝ちにこだわる子、悔しくて泣いてしまう子、負けるのが嫌で最初から参加したがりない子など、様々な姿が見られます。

また、鬼ごっこも人気で、最近では保育者がいなくても友達同士で鬼を決め、「かわり鬼」や「こおり鬼」などを楽しみお姿が見られます。

“みんなで遊ぶと楽しい!”という気持ちや、負けないように頑張る気持ち、友達を応援したり悔しさに共感して慰めたりという行動を生み出すのもルールがある集団遊びの経験からです。園では、そういった経験ができるようにルールのある遊びを皆でする機会をつくっています。

けれども、大人も得意・不得意があるように、集団での遊びを好まない子ももちろんいます。「やりたくない。」という子には、その子なりの理由があるはずで、体力的な面や仲間意識の面などでもう少し時間がかかるのかもしれませんが、無理に参加させず、「いいよ、見ててね。」など参加はしなくても雰囲気を楽しめるようにしたり、その子の気持ちを認めたりしています。

個(その子自身)を認めてもらうことで、「自分はできなかった。」というマイナスの感情ではなく、「自分は自分でいいんだ!」というプラスの感情にも繋がります。“みんなと一緒に遊ぶ楽しさ”を伝えつつ、その子らしさ、その子の思いや姿を大切にしていきたいですね。 <『ほいくあつぷ』より一部抜粋>



鬼ごっこの鬼を子ども同士で決めている場面です。「タッチされた人は…」等、ルールを確認し合う姿も見られました。

椅子取りゲームをクラスで楽しんでいるところです。「応援チームがいい。」と、周りで見たり応援したりする子もいます。

